

重点課題
 II 暮らしの向上
 7 スポーツの振興

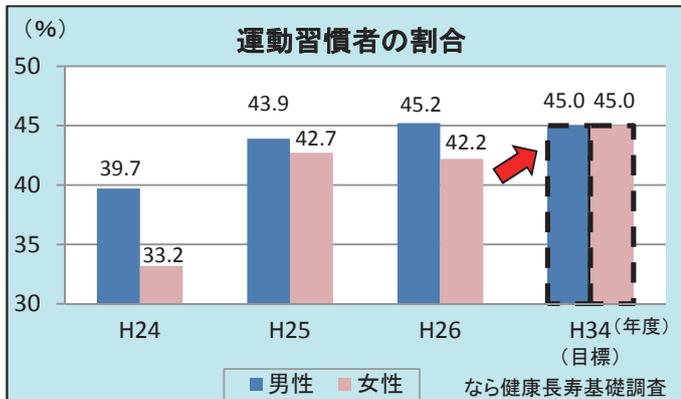
目指す姿
 「活き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を実現するため、生涯にわたり、「県民のだれもが、いつでも、どこでも、運動・スポーツに親しめる環境づくり」を目指します。



これまでの成果

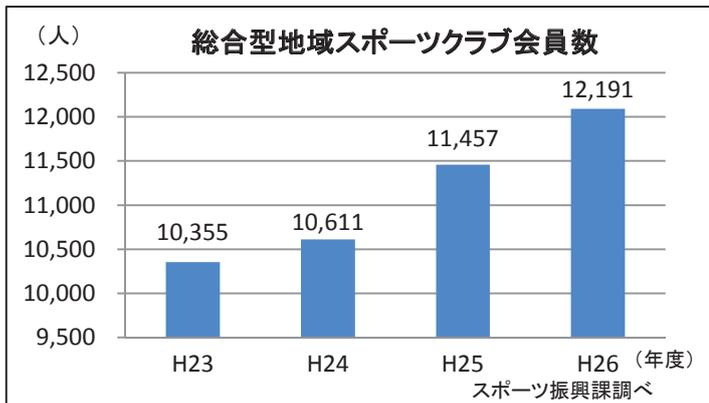
- ・スポーツ支援センターが積極的に市町村及び総合型地域スポーツクラブを訪問し、相談や啓発活動を行うとともに、毎年アシスタントマネジャー養成講習会を実施したことにより、総合型地域スポーツクラブ育成率が92.3%(H25年度)から94.9%(H26年度)に、アシスタントマネジャーは106人(H25年度)から120人(H26年度)にそれぞれ増加しました。
- ・平成26年7月にトレーニングジムや屋外50mプール、屋内25mプール等を備えた「スイムピア奈良」がオープンし、あわせてリニューアルしたファミリープール(開業期間:7/19-8/31)は、64,782人(H26年度)が利用し、両施設合わせて、143,973人(H26年度)が利用しました。
- ・旅行会社と提携しパック旅行を企画したことにより、奈良マラソンへの海外からのエントリー数が133人(H25年)から232人(H26年)に増加しました。

1. 政策課題の進捗状況



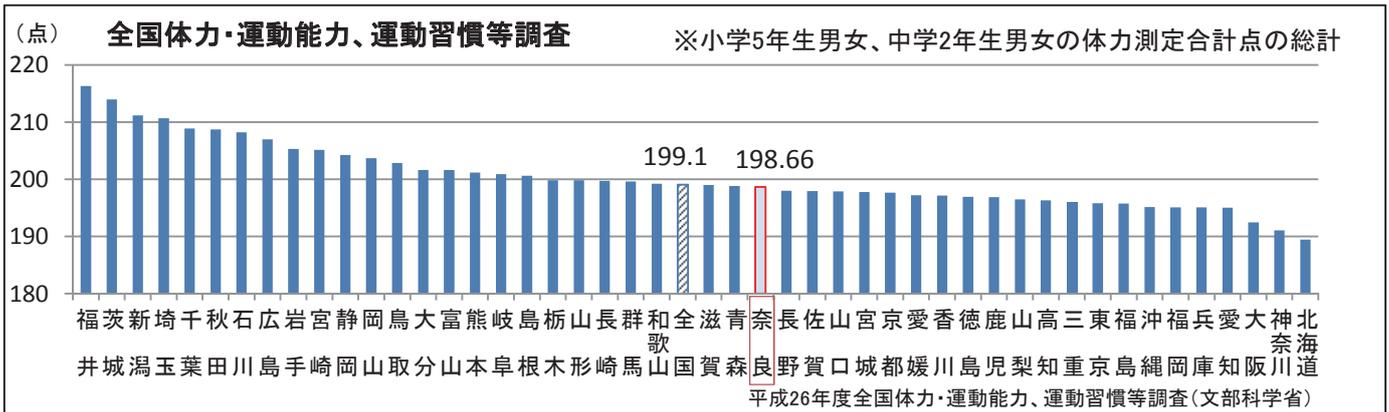
目標	1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合を平成29年度までに43%、平成34年度までに45%に増加させます。
取組	運動・スポーツを楽しむ環境づくりや機会の提供に取り組んでいます。
成果	第5回記念大会となった奈良マラソンでの県民卒の新設、新たなサイクルイベントやスポーツ教室などの取り組みを進めるとともに、総合型地域スポーツクラブの育成支援を行った結果、男性の運動習慣者割合は、平成34年度目標の45%を越えました。

2. 現状分析



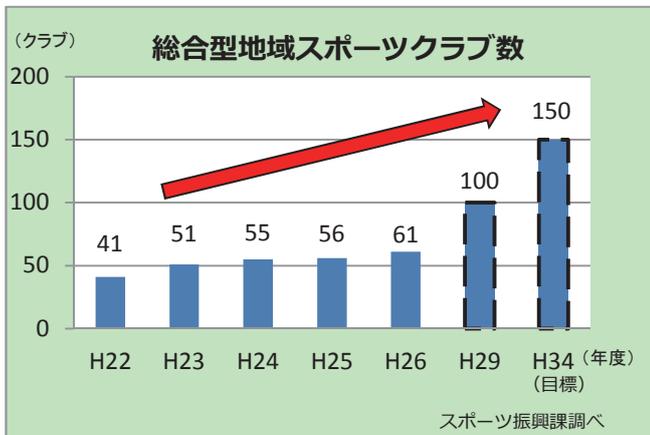
総合型地域スポーツクラブの会員数は平成25年度の11,457人から、平成26年度には12,191人に増加しました。

奈良県の児童生徒の体力は、平成26年度の全国調査では全国26位(小学5年生で男子21位、女子31位、中学2年生で男子23位、女子25位)とやや全国平均を下回っているものの、昨年度の38位より大きく上昇しています。

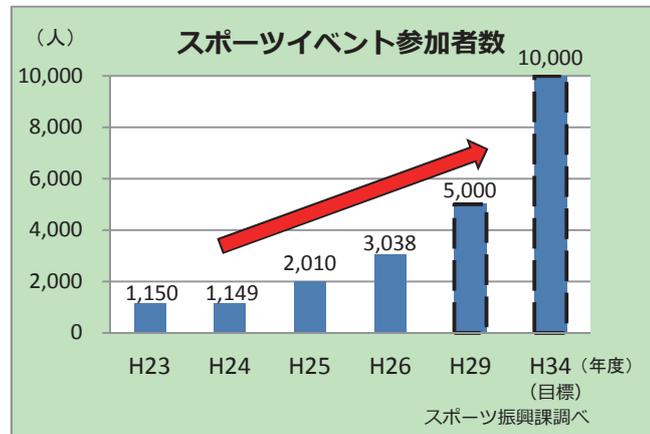


3. 施策課題の進捗状況

戦略目標	▶総合型地域スポーツクラブ数をH29年度までに100クラブ、平成34年度までに150クラブに増やし、だれもがいつでも気軽にスポーツを楽しむことの出来る場を提供します。(H25年度:56クラブ) ▶スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)の参加者数を平成29年度までに5,000人、平成34年度までに10,000人に増やし、スポーツツーリズムを推進します。(H24年度:1,149人)
------	--



取組	総合型地域スポーツクラブへの支援内容を充実しました。
成果	総合型地域スポーツクラブ数は、市町村等に対する支援により、平成22年度の41クラブから、平成24年度55クラブ、平成26年度は61クラブへと少しずつではありますが、順調に増加しています。



取組	スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)を充実させました。
成果	県内の総合型地域スポーツクラブで構成する連絡協議会による交流大会事業が活発化してきたことにより、参加者数は年々増加しており、平成26年度は3,038人に増加しました。

4. 平成28年度に向けた課題の明確化及び明確化された課題に対する今後の取組方針

平成28年度に向けた課題	今後の取組方針
東京オリンピック・パラリンピックを契機としたトレーニングセンターの整備	・トレーニングセンターの運営スキームについて検討します。 ・スポーツ医科学について研究します。 ・体力向上、健康増進のための運動プログラムを研究します。
ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致	ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックそれぞれのキャンプ地招致に向けた推進会議を立ち上げ、関係機関へのプロモーションや地元での機運醸成イベント等を実施します。
スポーツツーリズムの推進	豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等を生かしたスポーツイベントを開催し、奈良県への誘客を促進します。

5. 平成26年度評価において見直しを行った課題、取り組み

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
参加型スポーツイベントの実施	だれもが、いつでも、気軽に運動・スポーツを楽しめるようスポーツイベントの実施に取り組むこととしました。特に、既存のスポーツイベントについては、マンネリ化とならないよう内容の刷新を図るとともに、新たなイベントの検討も進めていくこととしました。